

* 佐渡米通信 こめ〜る 24.11 *



↓コンバインでの稲刈り
体験を行いました



↑稲刈り後の
集合写真



コープネット稲刈り

コープネット事業連合の組合員の皆さんが、佐渡市新穂正明寺にて認証米「朱鷺と暮らす郷」の稲刈りを行いました。コープネットの皆さんは5月に同場所で田植えツアーを行っており、始め馴れない作業に戸惑う姿も見受けられましたが、農家の方や JA 職員のアドバイスを受けながら、鎌を使って一株ずつ慎重に刈り取っていきました。

収穫作業後は、田んぼ近くのピオトープなどで生きもの調査を行いました。田植えの時期とは異なるイナゴやトンボなど多くの生きものを捕まえることができ、当日は子供たちの声でいつもより賑やかな稲刈り日となりました。秋は運動会や文化祭など学校行事でご多忙のなかでしたが島内の子供たちも含めた70名の方々が作業しました。



みつかっちゃった

収穫されたお米の流れ（カントリーエレベーターの場合）

コンバインで収穫されたお米は脱穀後、カントリーエレベーターで水分15%以内に乾燥させ、温度・湿度管理のもと、1本あたり250~300tのサイロで粳（もみ）のまま貯蔵し、出荷の都度粳すりを行い玄米にします。

カントリーエレベーターでは乾燥・貯蔵・モミすり・出荷の全てを行います。玄米や精米の状態では時間とともに品質が劣化し味が落ちてしまうので、カントリーでは粳のまま保管しています。皆様においしく食べてもらうための工夫として、農家がカントリーに持ち込んだ段階での成分分析、品質検査を行っていています。また、サイロ保管中でも度々サイロ間を循環させることで粳温度を一定に保つなど、1年を通じて粳の状態をよりよく保つための管理を行っています。



田んぼで収穫し、脱穀 → 専用コンテナでカントリーへ → 乾燥後もみの状態でサイロ保管 → フレコンでの出荷準備（中には1トンの玄米）

トキ情報

9月28日に7回目となる放鳥が行われ、今回で初となる出雲生まれのトキも含めた13羽が放鳥となりました。このことから、環境省が掲げる「島内に60羽定着（定着…野生下で1年以上生存）」という目標に更に大きく前進したとおもわれます。分散して飼育することで効率的に遺伝子の異なるカップルが誕生し、個体数を増やせます。

編集人：佐渡農業協同組合
営農部米穀課 渡部・古城(ふるき)
beikokuka.hanbai@ja-sado-niigata.or.jp
発効日：平成24年10月